

川口成彦 フォルテピアノ

1989年盛岡に生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位。フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」(ワルシャワ)、モンテヴェルディ音楽祭(クレモナ)をはじめとした音楽祭に出演。協奏曲では18世紀オーケストラ、{oh!} オルケストラ・ヒストリチナなどと共演。2023年には神奈川フィルハーモニー管弦楽団の弾き振りも行う。東京藝術大学楽理科卒業後、同大学およびアムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガーの各氏に師事。第46回日本ショパン協会賞、第31回日本製鉄音楽賞 フレッシュアーティスト賞受賞。近年は藤倉大や杉山洋一という現代作曲家からも作品を受け、初演のみならず積極的に演奏に取り組んでいる。またスペイン音楽をこよなく愛し、自主レーベルMUSISによるCD『ゴヤの生きたスペインより』(第2弾が2024年3月発売)や自主公演「スペインの森」などのプロジェクトも展開中。



©Rikunari Kikuchi

関連展示 堺の詩人 河井 醉茗と「女性時代」展

会場：フェニーチェ堺 交流・創作ガレリア

堺市立中央図書館が所蔵する貴重な資料を展示します。女性の芸術表現に共鳴した堺の詩人に思いを馳せてください。

日時：①'24 12/28(土)、②'25 1/4(土)～1/10(金)、③'25 1/15(水)～1/25(土) 10:00～20:00 (最終入場時間 19:30)

※初日12/28(土)は13:00～20:00、1/6(月)・1/20(月)は休館

入場
無料



アクセス

〒590-0061 大阪府堺市堺区翁橋町2-1-1
南海高野線 なんば～堺東 約10分
堺東駅から徒歩8分

チケット予約

フェニーチェ堺 WEB [サカイメイト チケット 検索](https://www.cnplayguide.com/sakai-bunshin/fenice-sacay/) <https://www.cnplayguide.com/sakai-bunshin/fenice-sacay/>

TEL 堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089 (10:00～18:00)

※一部携帯・CATV接続電話・IP電話からはご利用いただけません。

窓口 フェニーチェ堺チケット窓口 (9:00～20:00)

※堺市立桐文化会館、東文化会館、アルテベル(美原文化会館)窓口でも購入できます。

※窓口販売は一般発売日の翌月曜日より、残席がある場合のみ。

プレイガイド チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード 277-787]

ローソンチケット <https://l-tike.com> [Lコード 55975]

e+(イープラス) <https://eplus.jp/sf/fenice-sacay>

公演に関するお問い合わせ

フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール) 072-223-1000 (9:00～20:00)

[休館日:第1・3月曜(祝日の場合は翌平日)および年末年始] ※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。



女性作曲家が紡いだ音楽の時代を巡る

川口成彦

フォルテピアノリサイタルシリーズ2024

女性作曲家
への憧れ



第1回 古典派からロマン派へ

2024 12.28 | 土 | 15:00開演(14:30開場)

パーク：ピアノソナタ ヘ長調 op.4-1

ファニー・メンデルスゾーン：おお、子供の夢、金色の星 op.6-3 ほか

[使用楽器] ヨハン・クレーマー 1825年ウィーン製(タカギクラヴィア所有)



第2回 ロマン派から近代へ

2025 1.25 | 土 | 15:00開演(14:30開場)

C.シューマン：スケルツォ第2番 op.14

ビーチ：ひとりぼっちの母さんの子守歌 op.108 ほか

[使用楽器] エラール 1852年製(ヤマモトコレクション所有)

フェニーチェ堺 小ホール Sakai Performing Arts Center

全席指定(税込) 各4,000円 ※未就学児入場不可 一般発売 9月14日(土) 10:00

チケット予約 堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089 (10:00～18:00) またはフェニーチェ堺のホームページ、各プレイガイド ほか

お問い合わせ フェニーチェ堺 072-223-1000 [9:00～20:00 休館日:第1・3月曜(祝日の場合は翌平日)および年末年始]

※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。

主催：フェニーチェ堺(公益財団法人堺市文化振興財団) 協力：タカギクラヴィア/フォルテピアノ ヤマモトコレクション
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



※やむを得ない事情により公演内容が変更となる場合があります。 ※車いす席は堺市文化振興財団チケットセンターでご予約ください。

詳細は
こちら



©Rita Terada

私はあらゆる偉大な作曲家の作品に向き合うことは、ある意味役者のようにその作品の世界観や感性、作曲者の心情に「共感」することだと考えています。それゆえ女性作曲家の作品を昔演奏会で取り上げた際に、男性である自分にとってはどこか難しさを感じたこともありました。もちろんジェンダーというのは細かく分類すら本来出来ないのではないかと思うほど複雑なものです。けれど、ただシンプルに「女性」の作曲家の感性に自分を没入させることは私にとって自分の知らない感性を見つけ出す小さな冒険のようなものです。



第1回 古典派からロマン派へ

2024 12.28 | 土 | 15:00開演(14:30開場)

ロマン派の時代の女性の大作作曲家ファニー・メンデルスゾーンのピアノソナタを最終曲とする第1回はモーツァルトの時代のイギリスの作曲家パークから始まって古典派からロマン派の時代の移ろいを辿っていきます。この2人の女性に加えて、ショパンに先立って活躍したポーランド人シマノフスカ、バリ音楽院にて女性として初めて教授職に就任したファランク、ショパンと同時期に「練習曲」の芸術性を追いかけていたモンジュルー、ハイドンやベートーヴェンに才能を讀えられたビゴーが登場します。使用する楽器はウィーンで1825年に作られたクレーマーで、東京より西日本に初上陸します！（川口成彦）

Program

パーク：ピアノソナタ ヘ長調 op.4-1
モーツァルト：「女ほど素晴らしいものはない」の主題による変奏曲 ヘ長調 K.613
シマノフスカ：ポロネーズ ヘ短調／夜想曲 変ロ長調
ショパン：アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ op.22
ファランク：メロディー 変イ長調
モンジュルー：練習曲 第41番 変ホ長調
ビゴー：《練習組曲》より 第1番 ハ短調
フェリックス・メンデルスゾーン：幻想曲「スコットランド風ソナタ」嬰ヘ短調 op.28
ファニー・メンデルスゾーン：おお、子供の夢、金色の星 op.6-3 ／ピアノソナタ ト短調

使用楽器

ヨハン・クレーマー | 1825年ウィーン製(タカギクラヴィア所有)

ウィーン式のシングル・アクション。80鍵 4本ペダル(左から、シフト(ソフト)ペダル、ファゴットペダル、モデレーターペダル、ダンパーペダル)

左右のペダルは現代のピアノと同じ効果を得るための装置です。「ファゴットペダル」は、中音から低音域の弦の上に紙を巻いた棒が降りてきて、ビリビリという音色に変化させます。「モデレーターペダル」は、現代のアップライトや一部のグランドピアノにも付いているマフラーペダルと同様、弦とハンマーの間に薄いフェルトを挟ませるのですが、消音するためではなく柔らかな音色に変化させる装置です。ピアノに金属のフレーム(支柱)が全く使われてなかった時代のフォルテピアノは、低音弦は真鍮製で張力が弱く、小型の革巻きハンマーでは音量も少なく音も伸びないため、タッチだけで音色を変えることは困難でした。これらのペダル機能からは、表現力において、音量だけではなく音色も変化させたいという作曲家の思いが見て取れます。産業革命以降に良質な金属が生産され、弦も強く張ることが可能になると音量も音の伸びも格段に進歩。フェルト巻きのハンマーが採用されてタッチで音色が変えられるブレイエルやエラールが登場すると、フォルテピアノの音色を変えるペダル機構は消滅しました。(高木裕)

一般的に広く知られているフェリックス・メンデルスゾーンには天才的な姉ファニーがいましたが、当時の男性優位のドイツの社会の中でファニーは弟のように活躍することは出来ませんでした。しまいはファニーの作品なのに弟の名前で出版されたものもあったほどです。ファニーのように女性であったがゆえに自分の望む音楽活動が出来なかった人物が数多くいました。今日語られるクラシック音楽の歴史は大部分が男性によって成り立っていますが、歴史の影に隠れざるを得なかった女性作曲家は現代社会でこそますます注目されるべきであると私は思っています。もちろんそのような考え方は何も特別なものではなく、あらゆる演奏家が既に女性作曲家をこれまでも多く取り上げています。私自身も何か特別なことをしようとする感覚ではなく、ごく自然なこととして女性作曲家を今後演奏していきたいと思っています。2024年度のフェニーチェ堺は女性作曲家を中心に取り上げる演奏会をしてみたいと思いましたが(男性作曲家も登場します)、そこにあるのはただ純粋にそれぞれの女性作曲家の独自の感性への憧れです。

―― 川口成彦

第2回 ロマン派から近代へ

2025 1.25 | 土 | 15:00開演(14:30開場)

第1回到続く時代に焦点をあてた第2回ではロマン派から近代の作曲家の珠玉の小品たちを1852年のエラールで巡ります。グリーグの親友だったノルウェー人作曲家バックロ＝グロンダール、ロベルト・シューマンの最愛の妻にして19世紀最大のピアニストの一人クララ・シューマン、ショパンの大親友でロマン派の様々な大作作曲家を虜にしたメゾソプラノ歌手および作曲家のヴィアルド＝ガルシアが前半に登場します。後半はラヴェルの古典趣味の《亡き王女のためのパヴァーヌ》からインスピレーションを受けて、「ロマン派から近代へ」というテーマとは少し離れてスペイン人家系に生まれた18世紀の作曲家マルティネスのソナタで始まります。そしてドビュッシーの時代のフランスの偉大な女性作曲家シャミナード、アメリカで初めて女性の作曲家として成功を収めたビーチが続きます。(川口成彦)

Program

バックロ＝グロンダール：セレナーデ op.15-1
C.シューマン：スケルツォ第2番 op.14／夜想曲 op.6-2／ボレロ風奇想曲 op.5-2
R.シューマン：蝶々 op.2／ロマンス op.28-2
ヴィアルド＝ガルシア：セレナーデ
マルティネス：ソナタ ト長調
ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
シャミナード：トッカータ op.39／スペインのセレナーデ op.150／女道化師 op.41／瞑想曲 op.76-6
ドビュッシー：月の光／喜びの島
ビーチ：ひとりぼっちの母さんの子守歌 op.108／若い白樺 op.128-2

使用楽器

エラール | 1852年製(ヤマモトコレクション所有)

ロンドン／音域：A2-a4／ペダル：2本(ダンパーペダル、ソフトペダル)／外装：ローズウッド

ピアノ製造史上エラールの名は忘れる事ができない。現代の全てのグランドピアノに採用されているエスケープメント打弦機構は1821年にエラール一族によって考案されパテント登録されました。エスケープメント打弦機構とは簡単に説明しますと音の連打を容易にし、打弦運動を効率よくハンマーに伝える、これは革命的な出来事で、音楽に大きな福音になりました。今回使用のエラールピアノはロンドン郊外の元貴族の館に保存されていました。1851年に世界で最初の国際博覧会がロンドンで開かれました。その時出品されたエラールピアノは評議会でメダルを受賞しました。今日のエラールピアノは1852年に受賞を記念して作られたピアノです。状態は極めて良好な状態で往時の姿を保っています。(山本宣夫)